



羅針盤

社会科部 情報活用委員会

今、私たちにできること

藤川小学校 校長 片桐 徹

新型コロナウイルスの感染拡大によって、子供たちへの負担が、大変心配された1学期でした。また、夏休みも短縮され、課題や自由研究の扱いにも慎重にならざるを得ませんでした。この現状では、例年のように研究作品を募集して作品展を開催することは困難であるものの、一方で、既に年間を通して研究に取り組んでいたりと、短い休みであっても社会科研究に特別な意欲で取り組んだりする児童生徒がいることが予想されました。新学習指導要領では、子供たちが学びの意義や価値を実感できることがこれまで以上に強く求められています。子供たちの学ぼうとする意欲は何としても受け止めなければならぬし、その成果を紹介してやりたいと願う中で、今年度の社会科研究作品展は、無理のない自由参加を基本とし、優秀な作品についてはWeb開催で紹介するという方法をとることにしました。

制約された時間の中で学習内容の定着を図らなければならない現状には、確かに厳しいものがあります。しかし、このような状況下でも、今できることを考え、何とかして子供たちの学びを保障してやるのが、私たち教師に求められることだと思っています。それは、今回の社会科研究作品の募集や作品展のもち方に限りません。世の中での急激な変化や混乱で生じる解決困難な問いに迫ろうとする中こそ、社会科の学びの本質があります。Myタブレットを活用した学び方改革も進む中、社会科主任の先生方には、これまで以上に多くのご苦勞をお掛けしますが、様々な知恵を出し合いながら、これからの社会科の学びづくりの牽引者となっていただきたいと思ひます。

社会科・新任の先生の紹介

今年度の社会科部の新任は16名です。
どうぞよろしくお願ひいたします。

梅園小	浅井 博規	三島小	新村 栄基	岩津小	出村 柊太	上地小	鳥居 志帆
男川小	大屋 徳明	常磐小	安藤 春稀	大門小	中村 太郎	北野小	松井 望海
羽根小	三浦 理沙	細川小	半田 大和	矢作南小	服部 隼大	城北中	加藤光一郎
六名小	石田みのり	細川小	江本 望	六ツ美南小	後藤 元輔	福岡中	長谷川マリノ

社会科研究作品展

- 期日 令和2年12月頃
- 方法 Web開催
- その他
 - ・詳細は後日、主任を通して電子会議室にてお知らせします。
 - ・Web上に展示された代表作品に対しては、賞状を授与します。



三河教育研究会社会部会夏季研修会

- 1 テーマ
「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」(4年次)
- 2 期日 令和3年2月頃
- 3 方法 紙面開催
- 4 その他
 - ・詳細は後日、電子会議室にてお知らせします。
 - ・本年度、岡崎市社会科部の代表として、清水悠平先生(男川小)と太田信先生(東海中)とが実践を報告されます。(三教研担当 岡崎小 内藤恵三 矢作中 中根良輔)

発見！一押し地域教材！

(東海中 太田 信先生)

「アウトレットモールの誘致」(東海中学区)

★授業への活かし方

- 中学3年生 単元「地方自治と私たち」におすすぬ
- 学習課題

「アウトレットモールの誘致は学区民の幸せにつながるのだろうか」

★この教材を使い、工夫した点

- ①東海学区へのアウトレットモール誘致計画を足掛かりに、地域の再開発計画に対する地元住民の強い願いに触れる。生徒が強い関心をもっているアウトレット誘致計画を糸口として、まちづくりの主体となる地域住民・行政・まちづくりに対して不安を抱える人など、それぞれの立場の方の強い願いと、中学生に期待する思いに触れることで、よりよい社会づくりへの参画に意欲を高め、参画に対する見通しをもつことができるようにしました。
- ②教師の出を工夫することで、社会的な見方・考え方を働かせられるようにする。子供同士の関わり合いの中で子供に社会的な見方・考え方を働かせた追究活動につながる振り返しを行い、思考を揺さぶることで、実社会の多様性に気づき、地方自治がどうあるべきかを主権者としての自覚の下で考えることができるようにしました。



単元終了後、地域の話し合いに参加して発言をする生徒

必見！授業技！

(男川小 清水 悠平先生)

～コラボノートを取り入れた授業～

【本時までの流れ】

男川学区にある乙川を調査する過程で、以前は汚染されている時期もあったということを知りました。汚染を改善してきれいに維持するために、市役所やボランティアの方が活動していることを知りました。そこから、乙川をきれいに維持していくため、自分たちにできることを考える手段として、コラボノートを活用しました

【コラボノートの意図】

- ①今まで学んだことについて事実だけで終わるのではなく、その事実に対して具体的にどのように思ったかをより詳しく記述できるようにすることを意図しました。
- ②すぐさま簡単に書くことができるので、付箋機能を活用して短い文章にまとめることで、他の児童のメモをいつでも見られる状態となり、仲間の考えを参考にして自分の意見に取り入れることを意図しました。

乙川の水は仕事でもよく使われている。

乙川では楽しむこともできる。

ゴミを捨てていく人がいると他の人も捨てる。例えば、缶が捨てられていると他の人が大きなカンやソファ、冷蔵庫が捨てられていく。だから、ボランティア活動に若い人に参加してもらいたいと思っっているらしい。

市役所の方が言っていたこと
水質検査では生き物にとって 飲める水かどうか 毒が入っていないか調べる。
水質検査は数ヶ月に1回ある。
夏のキャンプやバーベキューをする人がゴミを捨てて行く人がいるので困る。

コラボノートに今まで学んだことをまとめ、整理したもの。